

3 最後は「人」！だけど、その人（達）は、ばらばらにいる?!何とかならないか?!

堂本 彰夫

(1) 新たにスタートした、玉城青少年の家の主催事業！そこで出会った、凄い人物?!

先日、玉城青少年の家の主催事業が、新たにスタートした！それは、「オンライン事例発表セミナー～学びつながら地域づくりを考える～」という事業であるが、第1回目（6/4）は、「①～古写真デジタルアーカイブの活用と地域づくりにもたらす利益について～」ということで、自称？（資格かどうかは分からない？）デジタルアーカイブディレクターの深谷慎平という人の事例発表があった。少しやんちゃな「いがぐりおじさん風」（40代半ば？）であったが、様々な情報に通じていて（いろんな世界を知っている？）、久しぶりに出会った実力者であった（話術も含めて!）?!私が現役の頃であったならば、大学の授業やゼミ活動等で、確実に、ゲスト出演してもらったであろう?!それくらい、インパクトのある人物であった!

それはともかく、今回は、今、彼が行っている「古写真デジタルアーカイブ」の事業（活動）内容の紹介であったが、改めて、その意義や可能性（地域づくりや教育への活用等）を感じさせてもらった！このデジタルアーカイブについては、名前くらいしか知らなかったが（私には、ほとんど無縁の世界だと思っていた?）、やはり、この機会がなかったならば、ほとんど、その意義や可能性について知ることはなかったであろう?!昔の写真（動画、あるいは紙媒体も該当するらしい?）を掘り起こして（個人が有している、何気ない日常の写真を含めて!）、その折々の情景や社会背景が読み取れる?!もちろん、そこに映っている（登場している?）当事者達は、そういうところまでは頓着していない?!しかし、それが、いわゆる「故郷」の再発見にもつながるということである?!

私には、その修復（デジタル加工）技術/機材自体は、まったく分かる由もないが、こうした地道な活動（発見・発掘を含む）が、子ども達を含む、その地域の人達の、新たな人間関係づくりや、学校での「郷土学習」等に活用されれば、まさに「地域づくり（まちづくり）」と「教育（ひとづくり）」の往還（循環）に、大いに貢献することとなる?!要は、ただ、ごく一部の人の郷愁や思い出話だけに留まらない、新たな地域づくりの局面、新たな地域づくりのツールともなるということである?!

ただし、それは、これまでのような「ゲストティーチャー」の招聘や「タウンウォッチング（街角散策）」の実施を否定するものではなく、むしろ、その双方を融合した、新たな「ふるさと学習プログラム」の一環として展開、活用されれば、さらに身近で、より実感性のあるものともなろう?!それが、魅力なのでもある（自分達の「おじい/おばあ」の若かりし頃が見えるかもしれない?）?!でも、そこに、それをお世話する（唱導する）人物が、一方で、絶対に必要である!単なる偶然では、長続きしないのである!

ということで、実は、私は、この論稿（事業の紹介?）の向こうで、かなりの無理（飛躍?）はあるが（否、本当は、そうではない?）、ある意味、「(教育における) 知の連環体→連続体」を期待しているのかもしれない?!それは、先号（2）で触れた（鳥澁がましくも?）、かの立花隆氏の「知の連環体→連続体」のことであるが（尤も、それは、もちろん「教育における」という枕詞付きであるわけであるが!）、それは、何も、特定の研究者や専門家集団の中だけの話ではなく、まさに、今、そこに生きている、すべての人々の間で生じることであり、また、そのことが、非常に重要なことなのではないかと思うからである!

(2) そうした「凄い人物?」は、おそらく、どこにでもいる?!しかし、問題は、彼らの存在と活動の成果が、広く知られ、しかも、それが、面としての広がりを持っているかどうかである?!

ところで、かつて（今でも?）、よく「本物に出会うこと」、「実践を行っている人に直接話を聞くこと」が、子ども達に（否、大人達にも?）大いに感銘を与え、教育プログラムとしては、非常に有効なものとして受け止められてきたように思うが（→「実物教授」あるいは「経験（体験）学習」）、実は、そこには、かの「知の連環体→連続体」の契機が、大いに宿しているのではないかとも思う次第なのである?!そして、それが、何ということはない、「教育の三層構造的な理解（FE/NFE/IFE+IL）」と、それに基づく「教育協働の必要性」ということにつながるわけであるが、その方法論が、ここに、いみじくも示されているのではないかということである?!

ただし、一方で、最早多くの「知の連環体→連続体」の契機は、日常生活の一部にはなく、だから、現在では、そうした「知の連環体→連続体」の契機を意図して、誰かが、人為的に（汗水垂らして?）発案、企画・実施しないといけないということになっているわけであるが、なかなか、その「人」が見つけれられない?続かない?いても、その「人」とコンタクトを取ることが出来ない?そういうことが、一方で、あるわけである?!

例えば、現在、様々なしくみづくり、取り組みが行われ始めているわけであるが（CSや地域学校協働本部事業等）、ある意味上辺だけの連携・協働に終始し、しかも、一部の人の関わりで、それが行われているようなところがあり、そこでの、重要な「人」との出会いも、必ずしもうまくいっていないように思える?以前、「重要なor意味ある他者（significant others）」の重要性について述べたこともあるが、ある意味、それは、この「知の連環体→連続体」に大いに関わるものとも言えるかもしれない?!つまり、「それは、何なのか?」、あるいは

「それは、何故なのか?」「どうしたらよいのか?」、そして、「(もっと) 知りたい」 etc. それ、人から人へと連鎖し、広がっていくということである?!

そこで、私が、今改めて、この「玉城青少年の家 (沖縄じんぶん考房)」の主催事業に注目 (期待) するのは、そうした、ばらばらにいる「凄い人物?」との出会いの場づくりであり、彼らが示す、その将来構想へのパワーの結集、そして、そのためのネットワークづくりなのである?! 格好良く言えば、今流行の? 「ブレイクスルー」への、新たな (最後の?) 場 (形) づくりと言えらるであろう?!

繰り返し言っているが、「誰でもいい!どこでもいい!」、思いと力をもっている人や場があれば、まずは、それでよいのである! ただし、ここで、改めて私が言いたいことは、これまでも、そういう人や場はあったし、今でも、さらなる成果を挙げ、新たな脚光を浴びている人や場もある (最近では、例のコロナ禍によって、苦勞されているようではあるが?)?!そしてまた、ビジネス?として成功しているところも、多々ある?!

だが、いずれにしても、私が、欲張りなのかもしれないが、そして、余計なお節介かもしれないが、それらの、「面としての広がり」が見えないのである?! 別な言い方をすれば、それぞれが、それぞれに評価され、その地域、その場所で脚光を浴びる存在になっていたとしても、そこで終わってしまっているのではないか?! ただし、これについては、今セミナー後の「ゆんたく (おしゃべり)」において、彼らも意識しているらしく、もっと大きな「面としての広がり」を求めているということではあった?! しかし、やはり現実には厳しく?、なかなかそのようには動けないということでもあった!

(3) 最後は「人」! だけど、その人 (達) は、ばらばらにいる?! そこを何とかしなければいけないのである?!

そこでだが、みんながそのように思っているのなら、脈はある! 望めば、実現するのではないか?! 多少? 自嘲とはなるが、「自由大学」と僭称し、そうした思いある人達の出会いの場、相互交流の場として、「教育協働セミナー」を立ち上げ、そしてまた、今回のように、他の施設や事業と連動させて (そこから派生させて)、新たな「ネットワークづくり」や新規事業への働きかけを行ってきているわけであるが、もう既に、自らの必要性の下に、動いている人や場はあるわけである (ただし、私の思いや働きかけは、それ自体では、ほとんど必要とされていないということでもある?)?とにかく、最後は「人」! と言うけれど、その人 (達) は、実際には、ばらばらにいる?! そこを何とかしなければいけないのである?!

ちなみに、こうした思いや働きかけについては、思い起こせば、私が琉球大学にお世話になった1990年から続いていると言えば、そう言える?! もちろん、それは、その時々々のゼミ生や関係市町村 (国社研や他県の人達、そして、県教委や学校関係者を含む!) のみなさんとの関係の中であるが、その都度、かなりの感触もあり、新たな動きへのお手伝いも、可能な限りしてきた (つもりである?)?! だが、やはり、残念ながら、それらは、つながっていない?! 自らの不徳の致すところと言えば、それまでだが、面としての広がり、そして、それらの時系列的な発展の姿・形が見えない (出来ていない) のである?!

これについては、あまり吐露したくはないのであるが (愚痴と取られれば、恥ずかしいからでもあるが?)、人は、ある人の立場や力を利用して、自らの立場や業績?を作り出そうとする?! つまり、利用し、利用されるということであるが、私の場合も、少なからず、そうしたことがあったように思う?! 私が、いわゆる「いい人 (都合のいい人? 口は悪かったが?)」であったからでもあろうが、その人達には、自らの思い (計算?) と人生設計があったということである?! 特に、現職教員の大学院受け入れでは、そうした要素が多分にあったように思う?!

もちろん、彼らに、恨み辛みなぞ毛頭ないが (本当である!)、私としては、彼らの大学院入学自体を歓迎したのではなく (多少、いい気になっていたのかもしれないが?)、そこからの飛躍、修了後の活躍、そして、何より、私の「地域教育経営→教育協働」理論の理解者/実践者として、彼らが羽ばたいてくれることを期待していたのである (そういう意味では、お互い様なのかもしれない?)!

いずれにしても、彼らは、ほとんどが、私から見れば、個々に活躍し (多くが、校長や行政職へ! ただし、一部、心を壊した?人もいた! 結局は、助けられなかったわけだが、その人には、大変申し訳ないことをしたと、今でも後悔している!)、私が期待したような、彼らが中心となった「地域教育経営→教育協働」の人的ネットワークの形成は実現しなかった! 結果的に (ある意味、そう言わざるを得ない?)、そうなったのではあろうが、一人ひとり、そういうところまでは望んでいなかったのであり、自らの立場や業績づくりが、主たる目的であったということであろう?! ある意味、彼らの、その時の、一時的な居場所 (避難場所?) を提供したということでもある?!

ということで、これ以上書くと、自分が惨めになるので、これ以上は書かないが、これが、多くの、地方の大学院レベルでの師弟?関係の実情なのかもしれない?! しかし、それで、よいのである! 淋しい (悔しい?) と言えば、それまでであるが、今回の呼びかけは、まったく事情が異なる! 他ならぬ、私の立場が違うのである! ない、あるいは弱いということであるが、だから、いくら私が、これまでの集大成と位置づけ、そして、おそらく最後のお手伝いとなろうと言っても、ほとんどの人には、そして、他ならぬ、以前の私の立場や力?を利用しようとした人にとっては、まったくの他人事なのである?! もちろん、それでよいのである! 「心ある人」、私が、そう呼び続ける人がいれば、それでよいのである (たとえ少なくとも!) ! (つづく)